



基本31枚
全176枚

放課後コタセカ生配信!!

母娘相姦チャンネル

母娘相姦チャンネル～放課後フタセク生配信～

「あら、美保ちゃあ～ん♪やあつと帰ってきたのねえ。おかえりなさあ～い」

「ふう...、ただいまあ～。...ん？もう配信始めちゃってるのお～？」

「そうよお～。ほら、美保ちゃん。ちゃあんと、カメラに向かって挨拶して♪早速2人で始めるわよお～」

「...はあ～い」



「はい、みなさあん。こちらが私、麻美の娘のお～」

「もうっ、ママってば！名前くらいアタシだって自分で言えるわよっ！」

「あら、そう？うふふ♪」

「コホンっ！はあい、やっほ～！視聴者のみなさあん、アタシは美保でえす♪今日はママとたくさんエッチなことをしていくからね。...あ、ママばっかり見ちゃイヤだからね？」

「あら、言うようになったわねえ～。皆さん、私の人妻ボディ♡にもお、見とれて行ってくださいねえ～？」

「もう、またおっぱい見せつけてえ！...みんなも反応しすぎだしっ！全く...」

「あら、『2人共仲いい』だって！うふふ。みんなにはそう見えるみたいよ？」

「はあ？どこが仲がいいのよお！そんなわけないしっ！」

「もう美保ってば照れちゃってえ～♪...それじゃあ、美保も揃ったことだし、『母子相姦チャンネル～放課後フタセク生配信～』始めるわよお～」

「コメントもガンガンよろしくねえ～♪」

「この生配信ではあ～、私たち親娘のとってもエッチなフタセクが見られまあ～す♪」

「お互いを肉便器にしたり、されたり～っ！激しい母子相姦を見てってくださいあい♪」

「...始めるのはいいんだけど、美保。そういえばあなた、帰りが遅かったじゃないの。ママ、待ちくたびれちゃったわよお～？」

「部活が長引いたんだから！仕方ないじゃない！それを言うならママだって...！」

「あら、ママだって、何よお？」

「ふんっ、いつもは2人揃って始めるのにいっ！1人で始めちゃうなんてっ！ずるいよお...っ！」

「あら、ごめんなさいねえ。美保があんまり遅いからあ、始めちゃった♪」

「もうっ！」

「でもお、この時間から始めるのはいつものことだし、ね？皆さん待たせちゃあ、ダメでしょ？」

「...うう、それはそうだけどお」

「ほらっ、『待ちくたびれた』ってコメントばかり来てるわよ？」

「うう～、ごめんなさい...」

「うふふ。遅刻しちゃった悪い子にはあ～♪ママからのきつつ～いお仕置き、してあげなきゃねえ～？」

「はあっ？！なんでそうなるのよっ！」

「ほら、視聴者の皆さんも期待してるみたいよお？」

「うう～っ！もう！部活で遅くなっただけなのにい～ッ！」

「なにになに？『お尻ペンペン期待』、『娘ちゃんのアナル見たい』？」

「もう！みんな！さっきはコメントしてって言ったけどお！なんでも言っ
ていいわけじゃないわよっ？！」

「はあい。それじゃあ両方やっちゃおうね～！美保ちゃん、カメラに向かっておしり向けちゃおっか！」



「はあい、まずは美保のアナルっ♪ご開帳～」

「ああ...っ、ちょっとママっ！」

「あら、ここの中はピンクで可愛いわねえ～。皆さあん、見えますかあ？」

「もうっ、いきなり拡げないでよおっ！うう...っ、お仕置きってこんなのが続くのお～？」

「そうよお、美保も頑張ってるね。...あら、写ってないって？それじゃあ、もっとカメラを近づけてえ～♪」

「うう...っ。なんでアタシがお尻の穴なんてえ...っ！」

「これなら見えるかしら？うふふ。美保ちゃん、皆さんにアナルの内側まで、見られちゃってるわよお～？」

「ママっ、そんなこと言わないでよお...！や、やだあ...っ」

「うふふ。部活の後のお、汗まみれのアナル、じい〜っくり、見てあげてねえ？」

「うぐッ、そんなに汗かいてないし！」

「そうかしらあ？その割には、ちょ〜っと汗臭いんじゃないのお？」

「そんなことないっ！み、みんな、本気にしないでよ？！」

「あ〜あ、このくっさあ〜い香り。みんなに嗅いでもらえないのが残念だわあ〜！」

「もうっ、調子に乗らないで...っ！」



「嫌がってる割にはあ〜♪うふふ。美保のおまんこ、ヌレヌレじゃない？」

「...ち、違うしっ！」

「あら、何が違うのかしらあ〜？こんなにたっぷりに濡らしておいて♪」

「こ、これは...！そ、そう、汗っ！部活でかいた汗だからっ！」

「うふふ。これのどこが汗なのお〜？こおんなに粘ついた液♪汗って言わないわよねえ？」

「ううっ、ちょっと！カメラに近づけないで！」

「ねえ、皆さん。どう思いますう？私の指についた、この、粘ついた液♪」

「やだ...っ、ママってばあっ！」

「ほら、みんな口を揃えて『愛液』って言ってるわよお？美保ちゃん、これは愛液、でしょ？」

「くッ、くうう〜っ！」

「ほら、認めなさい？お尻の穴を見られて感じちゃった、って。見られて、濡らしちゃったって」

「...ううッ、そんなの認めないっ！認めないんだからあっ！」

「...もう、美保ったら強情な子ねえ♪」



「そんな子はっ、ママのお尻ぺんぺんを食らいなさいっ！」

「え...?...んッほおおっ?!」

「こらっ!こらっ!この淫乱娘っ!」

「...んああっ!おほおっ!」

「こらっ!お尻叩かれても感じてるのかしらあっ?この子はっ!おまんこの次はおちんちんまで濡らしちゃってっ!」

「あひいいんッ!おおッ!...んおおっ?!」

「これはちゃんとした躰なんだからっ!こらっ!ちんぽも勃起させないのっ!」

「...んおおッ!おほお...ッ!ママあ...ッ、ママだめえ...ッ!お尻はだめなのお...ッ!」

「美保ちゃん。みんなに『変態』、『淫乱』って言われてるわよお？そうよねえ。お尻叩かれてちんぽの先っぽ濡らすなんて。おかしいわよねえ？」

「んおおっ！...う、うるさいっ！アタシ、淫乱なんかじゃ...、ないもんッ！んほおおんッ！」

「下品な喘ぎ方しちゃってえ。もう、なんてエッチな子なのっ！こらっ！」

「...んほおおんッ！ひゃああ...ッ？！」

「ホントに反省してるのかしら？こらっ、こらあっ！叩かれながら腰浮いちゃってるわよお？こらあッ！」

「うううッ、反省してますからああッ！おほおんッ！ご、ごめんなさいッ！お仕置きで興奮しちゃってごめんなさいい〜ッ！あッひいいんッ！」

「あら、ちゃんとごめんなさいが言えたわね。えらいえらい。それじゃあ、ひとまずお尻叩きはおしまい。次はあ〜」



「うふふ、次のお仕置きはあ、尻肉ぐいーっ♪って引っ張ってえ。もおつとアナルを丸見えにしてあげましょうね～」

「ちょ、ちょっとやめて...えっ！ひゃあんッ！さっきのでお仕置き終わりじゃないのッ？！」

「まだまだよお？叩かれて感じちゃった美保アナル、みんなにたあ～ぷり見てもらいましょうねえ♪んっ、ぐい～っ！」

「やだ...っ、やだあ...っ！はひ...っ！」

「うふふ。お尻に力を入れたってムダよ。感じちゃって力の抜けた美保が、ママに敵うわけないでしょ？ほおら、ぐい～っ！美保の淫乱アナルがヒクヒクしちゃってるの、よく見えるわよお？」

「んおお...っ？！恥ずかしいところ...ッ、見えてるッ！これ絶対ッ、みんなにアナルッ、見えちゃってるう...ッ！...ッああんっ！」

「入口のシワをスリスリ〜♪これ、気持ちいいかしらあ〜？」

「ひゃああ...ッ、そんなところ触らないでよおっ！...き、気持ちよくないしいッ！ああ...ッ、んおお...ッ！」

「あらあら。もじもじしちゃってえ。ふふ、もおっとスリスリしてあげましょうねえ〜♪」

「うう...ッ、あひい...ッ！だめ...ッ、そんなに触っちゃ...あッ！」

「それにしても我が娘ながら、綺麗なアナルねえ。美味しそう...っ、うふふ」

「...お、美味しそうって何よ！...もう！んひゃあッ、...ママの方が変態じゃないっ！」

「あらあら。私に変態ですって？みんなにお仕置き見られて濡らしちゃう、美保ちゃんには負けるわよお〜、ねえ？」

「ううう〜っ！それは違うって言うてるのにい...っ！」

「...そうかしらあ？でも美保。ホントは今も欲しがってるんじゃないのお？ママの指がアナルの入口撫でる度にい〜。太腿モジモジさせちゃってるわよお？」

「これは...っ、くすぐったいだけだしっ！んひっ、ほおん...ッ！」



「ほら、その勃起ちんぽ、こっち向けてみなさい。もちろん、画面の前の皆さんに、よく見えるようにい、脚をぱっかり開くのよお？」

「う...っ、うう...っ。アナルの次はちんぽ見られるのお...？こんなのッ、恥ずかしいよお...っ！」

「恥ずかしいって言いながらあ。美保ったら素直に従っちゃうのねえ〜。ホントはここに、快感が欲しかったのよねえ？」

「ほおんッ！ああ...んッ！指...っ、だめえ...ッ！」

「うふふ。こうやって穿られるの、イイでしょ？アナルとおまんこ、指先で同時にい〜、くちゅくちゅ〜っ♪」

「おほッ、ほおん...ッ?! 何これ...ッ、すごお...ッ！あひッ、ひい...ッ！んほおおッ！」

「あらあら。首を反らしながら喘いじゃって可愛いわねえ。ちょっと指でクチュクチュしてあげてるだけなのに」

「...お...ッほおッ、んおお...ッ！」

「今度はおちんぽも一緒にい...っ。スリスリ～、シコシコお～♪」

「ッおッほおお～ッ?!んほッ、あひいんッ!...全部同時は...あッ、だめえ...ッ、もうやめてえ...ッ！」

「あらあら、なっさけないわねえ～。私の娘なんだから、もっといけるでしょ?ほらっ、シコシコおっ、シコシコお～っ♪」

「んほおッ、んああッ!んひッ、急に速くしないでよお...ッ!うう...ッんぶう！」

「ああら、ホントに気持ちよさそうねえ。皆さん、うちの娘のだらしなあい顔、見てやってくださあい♪」



「皆さあん、見てくださいこの顔。うふふ。おちんぽとおまんこ、アナルを3点責めされたあ、メスの顔ですよお〜♪感じすぎちゃって、舌まで出しちゃってますねえ〜♪」

「おほ...ッ、あへえ...ッ！ああ...っ、ああんっ！や、やだあ...ッ！」

「まだお仕置きの最中なのに、こんなに感じちゃって...。もお〜っとキツイお仕置きをしなくちゃいけないかしらあ？」

「あへえ...ッ、んあ...ッ！みんな見ないでえ...っ、見ないでよお...っ、んひい...ッ！」

「ほら、みいんな、美保の情けない顔、じいっくり見てるわよお？うふふ。こんなはしたない顔、見られたくないわよねえ〜？」

「んおお...ッ、やだ...ッ！ママもうやめてえ...ッ！うう...ッ！」

「たっくさんコメントも来てるわよお？なにになに？『ドスケベ』だって～♪」

「見ないでえ、もう見ないでってばあ...ッ！アタシのドスケベ顔お...ッ、あへ...ッ、んおお...ッ！」

「...でも美保ちゃん、見られて悦んでるの、バレバレよお？イヤイヤって言いながら、ちんぽ、こんなにビンッビンに勃起させちゃってえ♪ほおら、この勃起ちんぽもお、たくさん見てもらおうねえ～♪」

「んおお...ッ！ち、ちんぽもおっ？！やだあ...っ！アタシのちんぽ、いっぱい見られちゃうのお...っ？あひいん...ッ！」

「そうよお。美保ちゃんのビンビンちんぽ、いっぱい見て見てってしようねえ～？...さっきから視聴者数もグングン伸びてるし。みいんな、美保のエッチな姿に釘付けになっちゃってるみたい♪」

「うう...ッ！あひい...ッ！そんなことお...っ、言わないでえ...っ！んお...ッ、おおッ！おほおッ！」

「さっきから、おちんぽビクンビクンしちゃってるわよお？そんなに见られるのが気持ちいいのかしらあ？うふふ」

「あひ...ッ、ひいんッ！...ああんッ！もうだめえ...ッ、おかしく、なるからあ...ッ！」



「はあい、シコシコお～、くちゆくちゅ～。気持ちいいねえ、見られながら触られるの、とっても気持ちいいわねえ～♪」

「うぐうッ、気持ちよくなんて...ッ、なってないんだからあ...ッ！んほおんッ！あへッ、んへえ...ッ！」

「ええ～、こんなにビクビクしてるのにい。気持ちよくないのお？認めちゃえばあ、もおっと気持ちよくなれるのになあ～？美保ちゃん、たくさん気持ちよくなりたくないのお？」

「うう...、気持ちよく...っ、おほおッ、なれるうッ？ああん...っ！だめだめえっ、認めない...ッ！」

「そう、みんな待ってるわよ？美保ちゃんが気持ちいいって認めるの。シコシコお、シコシコお。ね、ほら、言っちゃえっ♪」

「やだあ...ッ！んおおッ、見られて気持ちいいなんて言ったらあ...ッ！アタシ、変態になっちゃうう...ッ！」

「いいのよお、変態で♪ほら、言えッ、言っちゃえっ！」

「...うう...ッ！そんなことお...ッ！」

「ほおら、早く♪みんな、待ってるわよお～？」

「...う...、うう...ッ！...ぎ、ぎもちいい"ッ！い"いよお...ッ！もっと、してほじい"よお...ッ！」

「うふふ。よおく出来ました♪」

「くうう...ッ！んおおお...ッ！」

「お仕置きなのに気持ちいいねえ♪気持ちいいって認めちゃったら、もっと気持ちよくなったでしょ？うふふ」

「しゅごいい...ッ、見られながらお仕置き...ッ、しゅごいい...ッ！みんなに見られながらあ、ママにちんぽコキされてるう...ッ！んほお...ッ！」

「またおちんぽ大きくなった♪そろそろ出ちゃうかしら？お仕置きなのに、美保ちゃんのちんぽ、白いおしっこもらしちゃうのかしらあ？」

「うう...ッ！ちんぽコキでアへってる美保も見られちゃったのにい...ッ！射精も見られちゃうう...ッ！んほ...おッ！」

「ほおら、出す準備始めちゃえっ！メスなのにちんぽから濃厚ザーメンびゅーびゅーするところ、見られちゃえっ！」

「やだあッ！そんなの...ッ、そんなの恥ずかしすぎるよおお...ッ！あへ...ッ、あひッ、あひいいん...ッ！」



「すごい愛液溢れてきてるわよお？ほら、この音。クチュクチュって。みんなに射精見られる妄想して、もっと興奮しちゃったのかしらあ？」

「聞こえちゃうッ、ああんッ！そんなに掻き回したらあっ！くちゅくちゅしてる音ッ、みんなに聞こえちゃうからあッ！んひいッ！」

「ヌルヌルの愛液、アナルに塗りたくってえ...っ、つぽつぽっ、ぬぷぬ

ぷう～！あらあら、すごい音♪」

「んおお…ッ？！ああ…ッ、んほおおんッ！ナカはあ…ッ、ああんッ、だめえッ！ママの指が…ッ、入ってきてるうう…ッ！ああんッ！」

「アナルに指入れたらあ、またおちんぽ固くなったわねえ。…美保ちゃん、アナルが弱いものねえ、うふふ。もおっと虐めてあげましようねえ～」

「…おっほおお～ッんッ！ま、ママあ…ッ！そんなに弄ったらあ…ッ、んおお…ッ！」

「あら？そんなに弄ったらあ、何かしら？気持ちよくなっちゃう？射精しなくなっちゃう？」

「ううう…ッ！い、言わないでえ…ッ！ホントに出そうになるからあ…ッ！んおお…ッ、おお…ッ！」

「ほら、アナルとまんこ穿りながらあっ、ちんぽもシコシコ扱くっ！うふふ♪」

「んぐうう…ッ！らめえ…ッ！おちんぽ出ちゃううう…ッ！」

「はあい、みなさあん♪お待ちかねの射精タイムですよお～？美保ちゃんと一緒にい、どっぴゅんしちゃって下さいねえ～♪」

「ママ何言って…ッ、んおお…ッ！そんなにしたらあ…ッ、出るうッ、出る出るうう～ッ！んほおお…ッ！！出したくないッ、出したくないい…ッ！」

「ダメよ。出しなさいっ！お仕置きなんだからっ！ほら、手伝ってあげるから。シコシコお、シコシコお♪」

「お仕置きされてるのにい…、射精するところ見られちゃううう…ッ！やだあ…っ、そんなのイヤなのにい…ッ！！」

「出せっ、出しちゃえっ！美保ちゃんの射精みんなに見せちゃえっ！」

「ううう…ッ、出るッ！出る出るう…ッ！んおお…ッ、おほおおッ！！」



「...おっほおおおおお～ッ！！んおお...ッ！...んひいん...ッ、ひいい...ッ！」

「うふふ。たっくさん出てるわねえ♪ほら、最後までぴゅっぴゅしちゃうねえ～、シコお、シコお♪」

「ううう...ッ、うッ、んおお...ッ！！あへええ...っ」

「奥に溜まった精液、ぜんぶ出しちゃうねえ～。うふふ。抜くたびにぴゅっ、ぴゅっ、って出てる～。みなさあん、見えますかあ？」

「あひ...ッ、ひいい...ッ！出てる...ッ、アタシ、カメラの前で射精...ッ、しちゃってるよお...ッ！おお...ッ、んおお...ッ！」

「そうよお。うふふ。美保ちゃんの射精姿見て、皆さんも一緒に射精してくれたみたいよお？」

「やだあ...っ、もう見ないでよおお...っ！うう...っ、まだ出るう...っ！んおお...ッ、おほッ！」

「うふふ。出しちゃえっ、全部出してスッキリしちゃえっ！」

「んほおお...ッ、ううう...ッ！...はあ...っ、はあ...っ」

「あら、全部出せたみたいねえ～。ママの指まで精液でベタベタに汚しちゃって。スッキリできたかしら？」

「はあっ、はあ...っ。も、もう終わりでいいよね...？はあっ、はあっ」

「あら、まだお仕置きは終わりじゃないわよ？」

「そんなあ...っ、もうイヤだよおお...っ！」

「次のお仕置きは...。美保ちゃんの脇を嗅いじゃおうと思いまあす♪」

「わ、脇っ？！またあ...？ママ、いつも嗅ぎたがるし...。アタシの脇の臭い、ホントに好きなのね...」

「そうよお。ほらっ、いいから、腕を上げて...っ、その脇をこっちに向け

てごらんなさい♪」



「...この格好でいいのお？」

「そうよ♪それじゃあ遠慮なく...。すんすんっ、すう〜っ！」

「ああんッ、ママってばいきなりがつつきすぎ！こんなところ...っ、くすぐったいっ！」

「すう〜っ、すんすんっ！すうう〜、はあ〜っ！」

「もう、すっかり夢中になっちゃってるし...っ。...こんなに必死に嗅がれるなんて、恥ずかしい...っ」

「くっさあ〜い♪美保ってば、脇、くさすぎよお〜？すう〜っ、はあ〜っ！」

「...ちよっとおっ！臭いとか言いながら、アタシの脇から顔、離してないじゃないっ！ママの変態っ！」

「だってえ。この臭いを嗅ぐためにい、わざわざ放課後に配信してるんだからあ〜♪うふふ、学校や部活でかいた汗...っ、脇で熟成されたこの香り...っ、たまらないわあ〜っ、すんすんっ！」

「ん...っ！もうっ、みんなにも聞こえてるんだからあッ、あんまり臭いとか言わないでよ...っ！」

「くっさ♪くっさあ〜ッ♪」

「も、もうッ！やだっばあッ！」

「視聴者の皆さんにもお、美保のくっさい脇臭、嗅いでもらえないのがすっごく残念ねえ...。すんっ、こんなにいい匂いなのに...♪」

「...も、もういいでしょ？！終わりにしてえ...ッ」

「れろお〜っ、れろれろお...っ！」

「ひ、ひゃああッ？！...ちよっとママ、なんでアタシの脇、舐めてるのよお...ッ！んひ...ッ！」

「うふ、美味しそうだったからつい。でも汗の染み込んだ脇肉、とっても美味しいわあ...っ！れろおんっ、れろっ！」

「んひひッ、あははッ！く、くすぐったい...ッ！」

「んう...っ、れろお〜ッ、れろれろお〜っ」



「んひゃああ...ッ、ああんッ！」

「あら、急に喘ぎ声なんてあげちゃってえ。くすぐったいだけなんじゃなかったのお？」

「だってえ...っ、舐め方も厭らしいしい、おちんぽも触ってくるからあ...ッ」

「おちんぽ触られるの気持ちいいでしょ？うふふ、悦んでくれるかと思ったんだけど」

「ああん...ッ、ああッ！それに、ママのちんぽ、アタシのアナルに当たってるし...ッ！」

「あら、バレちゃってたのお？美保の脇があんまりにもいい臭いだから...♪ママも、興奮しちゃってえ...」

「ちょ、ちょっとおっ、喋りながら擦り付けてこないでよお...ッ！」

「だって美保ちゃんのアナル...。ママのおちんぽ入れてほしそうにヒクヒクしてるんだもの。...それにい、さっき愛液で濡らしておいたおかげで、すぐに入りそうになってるわよお？ん...ッ、ほらあッ！」

「んひゃああああッ？！ママあっ、先っぽ、入っちゃってるからあ...ッ、ああんッ！」

「はあっ、はあっ。すんすんっ、れろお〜っ。美保のアナル、柔らかいのですごく小さいわねえっ、んっ、んんッ！」

「だめえ...ッ、動かしちゃ...あああッ！もうこれ以上入らないからあ...ッ！」

「アナル、締まってるううッ、おッ、おほおッ！だめえ...ッ、これ、きちゃうう...ッ！！」



「おッ、ほおおおおッ！！」

「ッんぐうッ？！んおおお...ッ、おおお...ッ！！」

「おお...ッ、おほ...ッ！美保ちゃんに中出しッ！気持ちいい...ッ、んおお...ッ！」

「ママあ...ッ、んおッ、もういいでしょ...ッ！ぬ、抜いてよお...ッ！
うう、アタシまで出ちゃってるからああ...ッ！...ッおおッ！」

「うふ、...おおっ、娘のアナルにい...っ、ぴゅっぴゅしちやってるうう...
ッ、んほお...ッ、ほおんッ！」

「アタシのナカに...ッ、ママのザーメンいっぱい入ってきてるう...ッ！お...
ッ、んお...ッ、熱い...ッ！やだあ...ッ！」

「んはあ〜ッ、美保の脇の臭い嗅いでたらあ...ッ、んお...ッ、まだまだ出
そうよお...ッ！ああん...ッ！」



「すんすんッ♪...おほおッ！ほおら、ぜえんぶ受け止めなさいッ！うッ、うう...ッ！」

「んおお...ッ？！まだ、出るのお...ッ？！んぐう...ッ、もう入らない...ッ、やだあ...ッ！」

「すんすんッ、すう～ッ♪...んおおッ、おふうッ！美保ちゃんのも扱いてあげるからあ...ッ、んッ、美保も全部出しきっちゃいなさい...ッ！んおお...ッ！」

「うぐぐう...ッ、あひい...ッ！？やめてえ...ッ！」

「美保ったら、ホンットいい匂いねえッ！すんすんッ！んおおッ、まだ出るう...ッ！んひッ！」

「ううッ、アタシも射精止まらない...ッ！んおお...ッ、中出しされながら...ッ、射精しちゃってるう...ッ！んほおおッ！」

「うふふ。絶頂してるせいで、脇の臭い、更にキツくなってるわよお？厭らし～い臭いでムンムンしてる...♪すんすんッ！れろお～ッん！」

「うひひッ、イってて敏感なんだからあ...ッ！やめ...ッ、はひいんッ！ふひひいッ！んおお...ッ！中出し...ッ、早く終わってえ...ッ！終わってよお...ッ！」



「んはあ〜ッ、れろお〜ッ！おお...ッ、おほおんッ！」

「なんでまだ出るのよお...ッ！アタシのアナル...ッ、1番奥までえッ、ママのザーメンでいっぱい...ッ！んおお...ッ、おほお...ッ！」

「うふふ。さっき射精したのは美保だけだったもの。溜め込んでた精液、ぜんぶ美保のナカにい...ッ、出しちゃうんだからあ...ッ、んほお...ッ！」

「んぐぐ...ッ、うひい...ッ！！」

「んおお...ッ、おほお...ッ。...ふう...っ、ふうっ！...やっと全部出たみたいね...♪はあっ、はあ...っ。」

「はあ...っ、はあっ。出しすぎよ。もう、お尻の中、ヘンな感じするしい...っ」

「はぁっ、はぁっ。満足したわ。これで遅刻したお仕置きは終わりにしてあげる♪」

「はぁ...っ。やっと終わりね...。でも今度はアタシが攻めるから。ママばっかりずるいし！ほら、さっさとちんぽこっち向けて♪」

「あらあら、随分やる気になっちゃって。うふふ。いいわよお、ママをたっぷり気持ちよくしてね？」

「ふんっ、余裕ぶっちゃって。感じすぎて超恥ずかしい姿、視聴者さんに知られちゃっても知らないんだから！」



「んぶッ、んぶうッ！んぽおおッ、んぶぶッ、うぶッ！」

「んぁぁッ、んおおッ?!なに、これえ...ッ?!すっごいバキューム...ッ!んおお...ッ!美保ったら、いつの間にそんな下品なフェラ...ッ、覚えたのよお...ッ!あぁんッ!」

「んぶうッ、んぶぶぶッ！んぼッ、んぼおッ！んぼぼッ、んぶぶう～ッ！」

「おお…ッ、おほおお～…ッ！何これえ…ッ、おちんぽ吸われてるう…ッ！んほおお…ッ！こんな下品なフェラの音、みんなに聞かれちゃってるうう…ッ！」

「んぶぶッ！…どう？アタシの吸引。このスーパー吸引で、尿道に残ったザーメン、ぜえんぶ吸い出してあげるからあ！…んッ、ずぞぞぞッ、んぶぶううッ！」

「んほおおお…ッ？！あああ～ッ！娘フェラ気持ちよすぎるわよおお～ッ！うう、うひいい…ッ！」

「ママ、おっぱい押し付けすぎッ！前が見えないしッ、んぶぶッ、んぼッ、んぼッ！」

「美保のフェラが…ッ、気持ちよしゆぎるからあ…ッ！んほお…ッ、ほおんッ！娘フェラで感じすぎちゃってるとこ…ッ、みんなに見られちゃってるよおお…ッ！おほおッ！」

「そうよお。余裕ぶってたクセに、娘の口淫にい…、呆気なあく陥落したママのなっさけない姿。みい～んなが見てるのよお？あははっ」

「見られてるう…ッ！娘のフェラに負けてるところ…ッ、たくさん見られてるよお…ッ！んほおおおッ！おほお…ッ！」

「そ・れ・にい…！この下品なオホ声♪みなさん、ちゃあんと聞いてますかあ？普段は大人しい顔した人妻があ…、娘にちんぽ咥えられただけでえ…。こおんな浅ましい喘ぎ声あげちゃってるところお～！」

「やだ…ッ、やだあ…ッ！んほおお…ッ！だめなのにい…ッ、こんなエッチなのバレちゃだめなのにい…ッ！声止まんない…ッ、んほおお～ッ！」



「ほおら、ちんぽだけじゃなくて...ッ！コッチも攻めてあげる...ッ！」

「んほおお...ッ！？美保ッ、そこ穿っちゃだめええ...ッ！！おッ、おッ、おおおッ！」

「あれえ？アナルもおまんこもユルユルじゃん。入口に押し当てただけで、指が勝手にぬぷぬぷ入ってく...！ママってばアタシのフェラ、そんなに気に入った？」

「そんなこと...ッ、言わないでよお...ッ！んほおお...ッ、おほッ！」

「指先をお...、かるうく出し入れっ、出し入れっ。ぬぷ、ぬぷ、ぬぷっ！ママ、これ好きだもんねえ～？」

「おほおおおッ！んほッ、んほおッ！おひいッ、おひッ！」

「焦れたいねえ～？鈍くて緩い刺激が何度も何度も襲ってくるの、たまらないよねえ？あははっ、ママってば感じすぎ！」

「おほおおッ、ん...ッ、ほおおんッ！！あひ...ッ、おッ、おおッ！」

「太ももキュッって締めちゃってるし、つま先立ちになってるよお？そんなにこれ、好きなのお？」

「んほおおッ、しゅきいい...ッ！これしゅきいい...ッ！もっとお...ッ、もっと欲しいよおお...ッ！！んほおおッ、おッ、おおおおッ！」

「だらしのない顔。そんなにして欲しいなら、一気にイかせてあげるッ！んぶぶッ！高速フェラも食らえッ！んぶぶう～ッ！うぶッ！」

「あひいいいいッ！！おほッ、おッほおおお～ッ！んおッ、ああッ！あああんッ！」



「ぶぼッ、ぶぼぼッ！ んぶう～ッ！ ぶぼんッ！」

「おッほおお～んッ！ 出る出るう...ッ！ 精液出るからあ...ッ！」

「んぶうッ！ はへッ(だせッ)！ はひひゃへえッ(出しちゃええッ)！ んぶぶう～ッ！ ぢゅぶぶッ、ぢゅぶッ！」

「んああ...ッ！ 腰振っちゃうう...ッ！ 気持ちよすぎて腰止まんないよお...ッ！ おほッ、おおッ！」

「ほらいけえッ！ んぶッ！ 娘のバキュームフェラでイけえ...ッ！ んぼおッ、んぼおおッ、んぶッ、うぶううッ！！」

「で、出るからあ...ッ！ 娘の口にッ、精液ぶちまけるからあ...ッ！ おほおッ！ 出る出る出るううう～ッ！！」

「んぶッ、んぶッ、んぶうッ！ んッ、んッ、んぶッ、ンンッ、ンぶうッ！！」



「んッ、んぶぶぶぶぶうう～ッ！！?!」

「おッほおおおおおお～ッ！！」

「んぶぶッ、うぶッ、んッ、んおおッ?!」

「出てるうう～ッ！んほおお...ッ！おほッ、おッほおお～ッ！」

「うぶぶぶぶうッ！ぼぼべぶうッ(溺れるうッ)！ベーベぎべぼべぶうッ
(精液で溺れるうッ)！」

「おほおッ！これしゅごいい～ッ！娘の口マンコに射精するのしゅご
いい～ッ！おほおッ！おほおんッ！」

「んぶぶッ、うぶうう...ッ！」

「ほおら、美保ちゃんッ！もっと奥までッ、ママのちんぽ啜えてえッ！ん
おお～ッ！」



「んぶうッ、うぶぶッ、んぶううう～ッ?!」

「んああ～んッ!これ気持ちよすぎるわあ...ッ!敏感なところ全部、一気に攻められてるう...ッ!もっとお...ッ、もっとザーメン吸い出してえ...ッ!」

「んぐぐうッ!?んッ、ぢゆるるうう～ッ、ぢゆるるッ!」

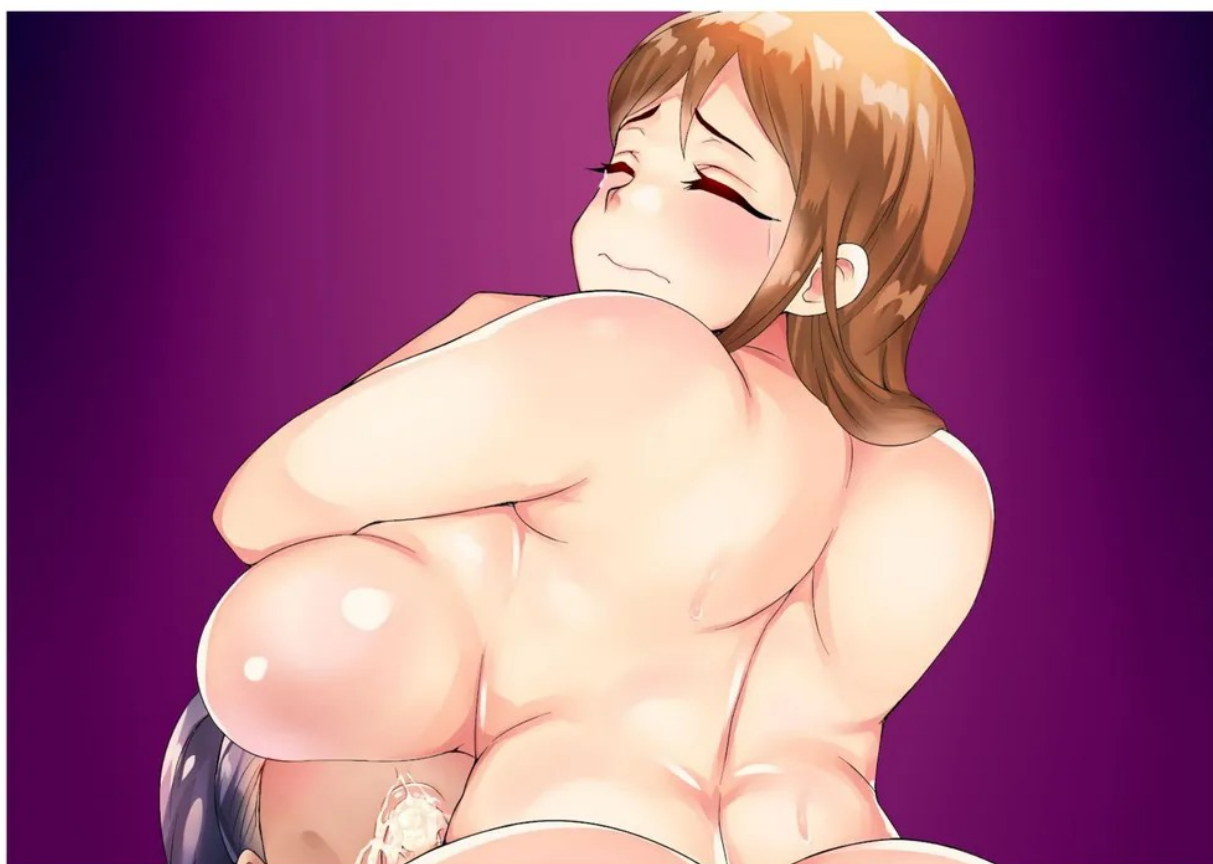
「そうよおッ、全部吸い出しちゃっていいわよお～ッ!ママのぷりっぷりのザーメンッ!いっぱい飲んでいいのよお...ッ!!おほッ、おほおんッ!」

「んぶッ!ごくんごくんッ、んぶぶうッ!」

「おッ、ほおおんッ!フェラチオしゅごいい...ッ、しゅごしゅぎるうう...ッ!はひい...ッ」

「うぶうッ、んぶッ!ごくんッ!」

「はあッ、はああんッ!...やっとう射精収まったあ...。おお...ッ」



「ごくんッ、ぷはぁッ！！ちょっとお、精液の量、多すぎない？」

「ちゃんと飲んでくれたみたいで、ママ嬉しい…。はぁっ、はぁっ」

「…それにい、ママのザーメン、苦すぎ…！それに濃厚だし臭いし…ッ！んんッ、喉に貼り付いて取れないよお…。すんすんッ、こんな強烈なの飲まされたら…。アタシもちんぽ、ガチガチになってきちゃったあ…」

「美保ちゃん…。ママも、またおまんこ切なくなってきちゃったあ…っ♪」

「はいはい、次はちんぽハメてあげるから。大人しくうつ伏せになってねえ～？」

「…は、はひい…♪」

「完全にアタシにメロメロになっちゃってる♪もう、アタシのちんぽしか見てないみたいだし」

「早くっ...っ、早くくださあい...っ！ちんぽ...、ちんぽ欲しいい...っ！」

「みなさあん、これが人妻の交尾ねだりですよお～？ちんぽにキますよねえ...？これから皆さんの分も、アタシがこのケツにい...、ガンガンぶち込むので、見てくださあい♪」



「その物欲しげな顔、カメラにバッチリ写っちゃってるよ？画面の前のみんながシコリ始めてるんじゃないのかなあ？」

「や、やだあ...ッ、私の顔...ッ、オカズにしちゃだめえ...ッ！ああ...ッ！」

「ママのエッチな姿見ながらあ...、たくさんのちんぽがギンギンになってるんだよお？ママのココに中出ししたくて、みんなのちんぽが精子作り始めてるんだよ？」

「あひ...ッ、あひい...ッ！んほお...ッ、おほお...ッ！」

「まだマンコの入口に、ちんぽの先端、コスってるだけなのに。言葉責めだけで、身体ビクビクさせちゃってさあ...」

「ちんぽ...ッ、娘ちんぽ...、欲しい...ッ！もうッ、焦らさないでよお...ッ！」

「ええ〜ッ。ママってば、そんなこと言って、恥ずかしくないのお〜？みいんなに聞かれてるよ？」

「う...ッ、ううう...ッ！」

「マンコに娘のちんぽ欲しがって、腰振ってるところも、ぜえんぶ見られてるよお？恥ずかしいねえ♪」

「ううう...ッ！恥ずかしいところ...ッ、見られちゃってるのにい...ッ！欲しい...ッ、ちんぽ欲しいのおおッ！」

「ホント、ママって変態だね♪」



「はあい。もう、ちんぽ入っちゃったあ〜♪うひひッ！ママも大したことないんじゃないかい？」

「あ...ッ、ああああ〜んッ！」

「気持ちよさそうな声出しちゃってさあ〜。そんなにアタシのちんぽ、欲しかったのお〜？」

「あひい...ッ、んほ...おッ！ああんッ！欲しかったあああッ！ちんぽ欲しかったのおおッ！」

「アタシのちんぽ、どう？大きくて遅いでしょ？」

「んおおおッ、おほお〜んッ！ちんぽ大きいよおおッ！気持ちいい...ッ、いいよおおッ！」

「ガニ股になって、腰浮かせてえ。ちんぽ入れられてアンアン喘いじゃっ

てさあ。ホンット、ママって淫乱♪」

「だってええ...ッ！美保のおちんぽが...ッ、気持ちいいんだもおんッ！ん
おおおッ！」

「あはは！それじゃあ、アタシはアタシの好きに動くからッ！ママはせい
ぜい、娘にオナホにされてればあ〜？」

「んほおおおッ！おッ、おッ！オナホッ、オナホにされてるううッ！私の
おまんこッ、好きに使われちゃってるううッ！」

「ふんッ、ふんッ！んおおッ、おほおおッ！」

「んほおおおッ！ほおお〜んッ！」



「あれ、んおお...ッ？！出てる...ッ、さっきの精液、出てきちゃってるう
...ッ？！」

「あら、美保ちゃんったら、私が出したザーメン、嘔き出してきちゃったのお〜？ブピュブピュッ！って下品な音、ここまで聞こえてくるわよお？」

「くううッ！アナルからッ、ママのザーメンッ、出ちゃってるううッ！止まってえッ、止まってよお...ッ！」

「うふふ。ママの濃厚ザーメン♪たあっぷり出してあげたもの。そう簡単に止まらないわよお？」

「ううう...ッ、あひい...ッんッ！うううッ、だめえッ！こんなところッ、みんなに見られたくない...ッ！」

「んおおッ？！美保ちゃん！恥ずかしいからって、腰動かさないでよおッ！イクうッ、イっちゃうからああッ！」

「こうなったらッ、ママも道連れよおッ！ほらッ、イケッ！オナホがちゃんぽに逆らうからッ、こうなるのよッ！んおおッ！おッ！」

「んほおおおおッ！イクうううッ！そんなに激しくされたらあッ！んひッ、ひいいんッ！」

「イケえッ！んおおッ、おほおおんッ！おッ、おッ、おおッ！」



「んほおおおおお～ッ！！！」

「んお"おッ！？お"おおお～ッ！！」

「おほお...ッ、んほおお...ッ！」

「うぐぐッ、おッ、あひいいッ！」

「あへええ...ッ！んほおおおッ！」

「はあッ、はあッ！ううッ、アタシまでイっちゃったじゃない...ッ！」

「おまんこ...ッ、熱いいい...ッ！はあッ、はああんッ！」

「くうッ、ママってばまだイってるのお...ッ？！んおおッ！」

「ザーメンがッ、ナカで暴れて...ッ！あひいいんッ！そこはだめなのお
おッ！」



「や、やるじゃない...ッ！んおおッ、おほおおおんッ！出てる...ッ、またザーメン出ちゃってるう...ッ！」

「も、もうだめええ...ッ！ザーメンがあッ、奥まで押し込まれてるう...ッ！んほおおッ！」

「ママのナカッ、気持ちよすぎ...ッ！くううッ、止まんないッ！射精止まんないッ！」

「んぎいいい～ッ！あひいいんッ！」

「おほおおお～ッ！まだまだ出るッ！おほおおおッ！」

「あひいい...ッ！もういらないッ！ザーメンいらないッ！おかしくなるう...ッ！んほおッ、おほおおお～ッ！」

「オナホ相手に加減なんかするわけッ、ないでしょッ！おらッ！文句言わずにッ、受け止めてよッ！んぐッ！おほおおッ！」

「おおッ、おほおおおお～ッんッ！」



「はあッ、はあッ！すっごい出た...♪」

「もう、いくらなんでも出しすぎよお...♪ママのナカ、たぶたぶになっちゃったあ...」

「ママだって、中出しされながら何回もイってたじゃん。ママのちんぽもヌルヌルになってるし♪」

「うるさいッ！」

「メスイキしながらあ、ちんぽから射精もしちゃったんだねえ～？あははっ」

「も、もうッ！仕方ないでしょッ！」

「ふう...ッ、ママってホントに最高の肉便器ね...♪」

「はあっ、はあ...っ！私だって...ッ、犯されてばかりじゃ...ッ、ないんだからあ...ッ！」

「へえ？やけに自信満々じゃない！やれるもんならやってみてよッ！」



「それならッ、今度は私の番よお〜？」

「あれえ？ママの非力な力じゃあ、逆にアタシにハメられちゃうんじゃない？...ッんおッ！」

「うぐぐ...ッ！美保、あんた力強くなってない...っ?!」

「当然。アタシだって、毎日部活で鍛えてるんだから。主婦してるママに、いつまでも負けてる訳にはいかないのよッ！」

「や、やるわねえ...ッ！んぐうッ、んほおおお〜ッ！」

「はあい、ママの負けえ♪ハメようとしてハメられちゃうなんて、情けないよお〜？あははっ」

「...んおお...ッ！...くっ、まだッ！まだよおッ！」

「ええ〜っ、相変わらず諦めが悪いなあ...。こんなの誰が見たってママの負けに決まってるじゃん。ね？視聴者のみんなもそう思うよねえ？」

「ふんっ、こういうのは先にイッた方が負けなのよッ！はあっ、はあんッ！ほらッ、ママのおまんことこの腰遣いに耐えられるかしらあ？」

「んほおッ？！ちょっ、急に腰動かさないでええ...ッ！あひいッ！」

「うふふ。ぼうっとしてたらあ、んッ、美保だけがイっちゃうよお〜？そんなの恥ずかしいわよねえ〜？」

「くうう...ッ！調子に乗っちゃってえ...ッ！見てなさいよお...ッ！！」



「ほおら、私をイかせてみなさいよお！ふんッ、ふうッ、ふうッ！」

「あひいッ！おほッ、おほおおッ！ママのおまんこ...ッ、締め良すぎるう...ッ！アタシのちんぽもってかれる...ッ、搾り取られちゃうう...ッ！」

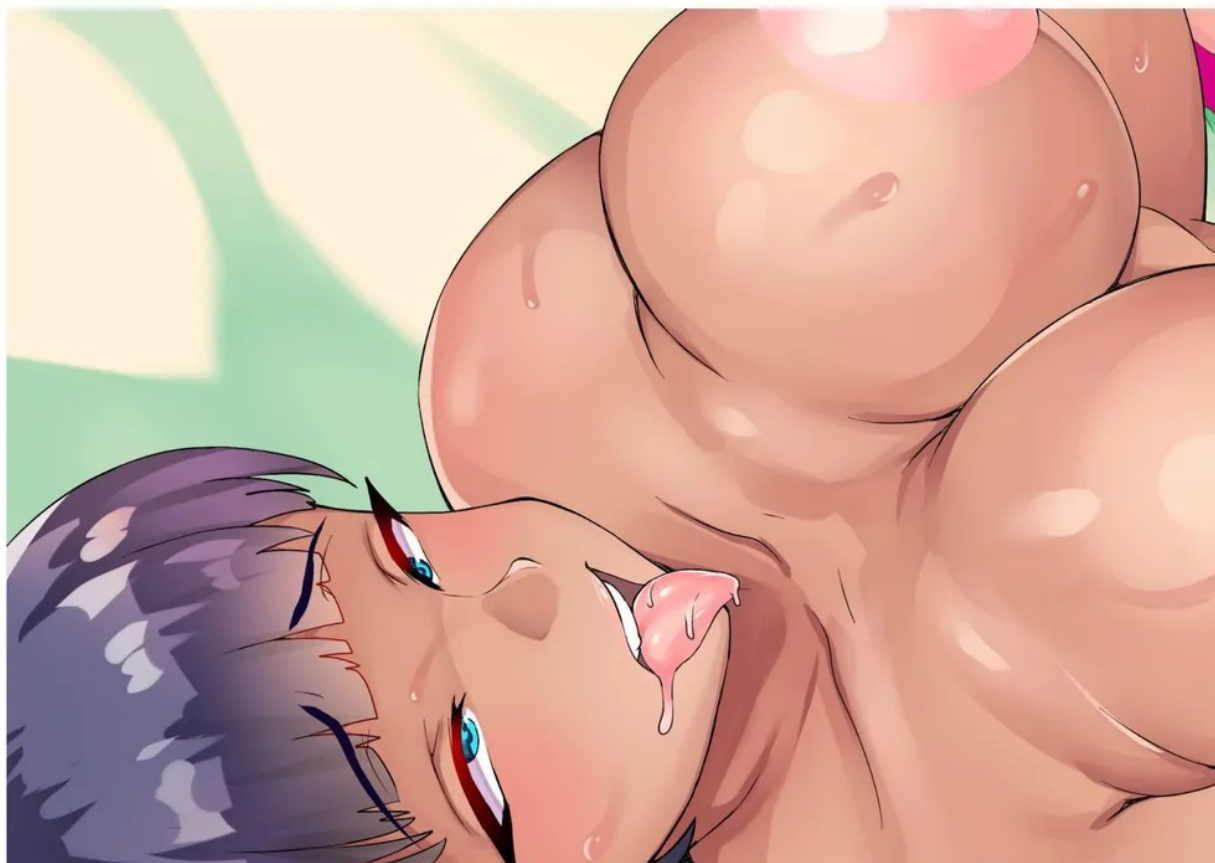
「ちんぽ入ってる方が有利な勝負なのにい〜♪美保ったらまだまだねえ〜！ほら、負けちゃえッ！ママのまんこに負けちゃえッ！」

「やだやだやだあ...ッ！負けないうッ！こんなのでイくわけないうッ！んおおッ、おほッ！」

「言うじゃないのお。でもお、それにしてはあ...、ちんぽ震わせちゃって今にもイきそうになってない？」

「そんなこと...ッ、ないしいッ！うぐぐッ！」

「そうかしらねえ？そう言う割には私を押し返す力も弱くなってきてるわよお～？もうギブアップしちゃうのかしらあ？」



「ふんッ！ママの方こそ、アタシのちんぽ入れられて、自分のちんぽまでギンギンに勃起させてるじゃん！んッ、んあぁッ！」

「こ、これは別に...ッ！」

「ママのちんぽ、ビクビク跳ねちゃってもうイキそうなんじゃないのお～？おまんこもきゅうきゅう収縮してるしさあ～♪」

「ううう...ッ！...ほらッ、さっさとイきなさいよおッ！ああんッ、あぁッ！おほおッ！」

「ちょッ、急に激しく動かないでよおッ！おほッ、んほおおんッ！ママのナカツ、あつついよおッ！んほおおんッ！」

「ママのおまんこに搾り取られちゃえッ！んほおおッ！」

「イってたまるかぁ～ッ！ママの負けッ！みんなにッ、娘にハメられて負けた姿ッ、みんなに見てもらおうねッ！んおッ、んんッ！」

「美保ちゃんこそッ！ちんぽハメてるくせにおまんこに屈服しちゃった姿、見られちゃえッ！んおおッ、おほッ！」

「だめだめえ...ッ！イクッ、イクからぁ...ッ！！くうッ、絶対にイかせてやるッ、ううッ、んほおッ、んぐッ！」



「おほおお～ッん！おほッ、おひいいい～ッ！！」

「くうう～ッ、んほおおッ！おほッ、ほおおんッ！！」

「おひいいい...ッ、ひゃああんッ！」

「んおおッ、おッ、ほおおお〜ッ！」

「んほおッ、おッ！美保の身体にい...ッ、精液ぶちまけちゃってるう...ッ！おほおおッ！」

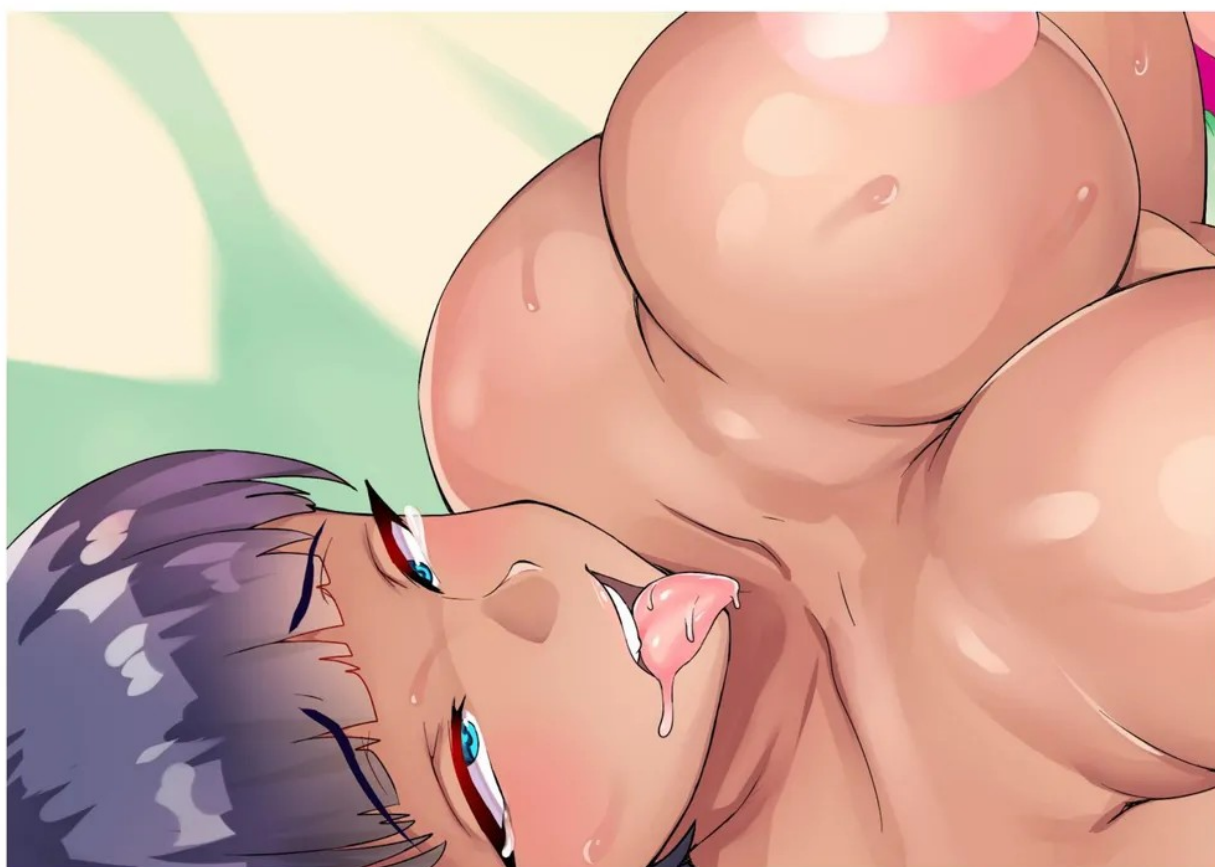
「んおおッ、中出し気持ちよすぎ...ッ！搾り取られてるのわかる...ッ、ううッ！」

「んひい...ッ、はあっ、はあっ！おお...ッ、んほおお...ッ！」

「ふひい...ッ、んおお...ッ！おほお...ッ！はあっ、はあ...っ」

「うう、いっぱい出しちゃった...っ」

「アタシも...っ。はあっ、はあっ」



「ひ、引き分けていいわよねえ...？」

「ええ～？アタシの方が遅くなかったあ？ママがイってまんこ締めるからこっちもイっちゃったのよ」

「ええ～、それを言うならあ。美保があっついザーメン中出ししてきたせいで、絶頂した気がしてきたわよお？」

「ふんッ、まあいいよ。次はもっと気持ちよくしてあげるから！ほら、ママ、脚拡げて」



「んッ、んおお...ッ！？」

「おほおおッ？！おッ、おおッ！いきなり入れられたらあ...ッ、ああッ！」

「イったばっかだから...ッ、敏感まんこには気持ちよすぎちゃうかなあ...ッ？うぐッ、狭い...ッ！んおおッ！」

「うぐうッ、ちんぽ入ってくるううッ！」

「食らえッ！娘のちんぽにハメられて感じちゃえッ！んッ、んんッ、ん
おおッ！」

「おほッ、おほおおッ！くうう～ッ！」



「スンスンッ！あれえ？ちよっとお、ママの脇、くっさ～っ！」

「え...ッ？！ちよっと、何勝手に脇の臭い嗅いで...ッ！それに臭いなんて
...、す、するわけないでしょっ？！」

「ええ～？ママの脇、すっごく臭いよお？すんすんっ、すうう～っ！ゲ
ホッゲホッ！...噎せちゃうくらいくっさあ～い♪」

「私が臭いだなんて、そ、そんなことないのよ、皆さんっ！信じてくださ
いい！」

「それじゃあ、この鼻を突くような酸っぱい臭いはなあに？吸い込むだけで脳が痺れちゃうぐらい、臭いんだけどお？」

「ああん...ッ、そ、そんな風に言わないでよお...ッ！」

「ママはアタシと違って部活してたわけでもないしい。なにか運動をしてるわけでもないわよねえ？それなのに、脇がこおんなに汗臭いのはあ、どうしてかなあ～？」

「こ、これはッ、今までの美保ちゃんとのセックスのせいでッ、汗をかいて！それで臭くなったのよっ！きっとそうよっ！」

「ん～？それにしても濃厚すぎる臭いなんだよねえ～。脇の肉にこびり付いてるっていうか、染み付いてるっていうかあ...」

「ううう...ッ！」

「すんすんっ！...うわ、くっさ！これたまんない...ッ！すんすんすんッ、すう～ッ！」

「やだ...ッ、そんなに必死に嗅がないでえ...ッ！ひゃああッ！」

「すんすんッ！鼻が勝手に嗅いじゃう！くっさッ、くさすぎッ！すんすんッ！」

「あへええ...ッ、ちんぽおっきくなったあ...ッ！美保ちゃん、ママの脇で興奮しすぎよお、...ッ！おほおッ！」



「ほおら、このくっさい臭いはなあに？早く白状しちゃいなよ～。すんすんッ！」

「な、何にもない...ッ、わよおお...ッ！んひいッ！」

「言わないとお...、このままアタシのちんぽ、ずうっと動かしてあげないよ？」

「やだッ、やだあ...ッ！ちんぽ欲しいッ！ピストン欲しいい...ッ！」

「欲しいよねえ？それじゃあ、なんて言うのかなあ？ほら、ほらっ！」

「う...ッ、ううう...ッ！」

「言わないと、気持ちよくなれないよお？ちんぽパンパンってしてもらえないよお？淫乱おまんこ切ないねえ、ちんぽハメられたいねえ...♪」

「ううう...ッ！うう...ッ！私...ッ！私はあ...ッ！美保が帰ってくる前に、1人でえ...ッ、オナニーしてましたあ...ッ！」

「あははっ！やっぱり！学校から帰ってきたとき、リビングがすごいイカ臭かったんだよねえ〜♪」

「うう、ちゃんと言ったんだからあ...ッ！動かしてえ...ッ！娘ちんぽでいっぱいママをハメてよおお...ッ！！」

「いいよお。ほらッ！んッ、んんッ！すぐにいくぐらい激しいの、してあげるから...ッ！おッ、んおおッ！」

「おッほおおおお〜ッ！おほッ！きたあ...ッ！高速ピストンきたああッ！巨チンでえ...ッ、ママの奥に何回もおもたいのッ、きてるうう...ッ！」

「イケッ！んおッ、オナニー狂いの変態め！イケッ！娘のちんぽハメられてッ、派手にイっちゃええッ！」



「んひッ、んひいいいい～ッ！！?!」

「おッ、おおッ！んおおお...ッ！んひッ、ひいッ！！」

「んおお...ッ、おおッ！んひいい～ッ！」

「おほおッ！おッ、おおッ！」

「ぎもちいい...ッ、い"いよお～ッ！お"おおッ、おぼおおッ！」



「あははっ！ママってば、完ッ全にアヘ顔！中出しされてえ、おかしくなっちゃったあ〜？」

「あへ...ッ、はひいい...ッ！」

「この格好もお、放尿中の雌犬みたいだもんねえ〜？片脚上げてえ、ちんぽ丸見えにしてさあ〜。ほら、ワンワンって言ってみてよ！」

「んんええッ！そんな恥ずかしいこと言えるわけない...ッ！んんッ！」

「これだけ情けない格好しておいてえ。今更恥ずかしいなんて言われてもねえ〜！ワンワン鳴くぐらいできるでしょ？ほおら、言えッ！おらッ、おらッ！」

「...うう...ッ！んおおッ、おッ！...わんっ、わんわんッ！」

「そう、カメラに向かって言うのよッ！ほらッ、突いてあげるからッ！」

「ワンワンッ、ワンッ！くうんッ！」

「皆さあん！これが人妻のお、発情犬のモノマネですよお～。あはは！ママってば、ちんぽハメられながら犬のモノマネなんて情けなあい！」

「ワンッ、ワンワンッ！くうッ、んほおおッ！」

「んおッ、みんなに見られてるって思うと、興奮してきちゃったかなあッ？また、まんこの締めつけキツくなってるよ？」

「くう～んッ！ワンッ！ワウンッ！」

「腰動いてるし。ほらッ、敏感まんこッ！アタシのちんぽで突かれてッ、感じろッ！おッ、んおッ！」



「くううん...ッ！んおおッ、んほおお～んッ！！」

「...あら、またおもらししちゃったねえ♪白いおしっこ、どぴゅどぴゅ出てるよお〜？」

「や、やだあ...ッ！んおおッ！止まんない...ッ、白いおしっこ、止まんないよお...ッ！」

「ママ。アへ顔おもらし、見られちゃってるよ？恥ずかしいねえ？あはは！」

「くう〜んッ！おほッ、おほおおんッ！おほおおッ！」

「ああら。すっかりアタシのちんぽに堕ちちゃったかなあ〜？精液でいっぱいまんこ、突かれてアへっちゃって！」

「おちんぽ...ッ、ちんぽお...ッ！おほお...ッ！」

「さっき連続で射精したくせに、まだ入れて欲しいの？」

「おッ、おほお...ッ！欲しい...ッ！おちんぽお...ッ、はあっ、はあ...っ！」



「まだアタシのちんぽ、欲しいんだ？ホント、ママって変態だね」

「ちんぽ...ッ、美保のちんぽ、強すぎるよお...ッ！おッ、おおッ！」

「こんどは違う体位で入れてあげるから。ほらッ、んおッ、おッ！これッ、奥まで入るッ！」

「んひいいい〜ッ！んおッ、おおッ！おほおッ！おへえ...ッ！」

「さっきより深いッ！うう...ッ、おッ、おッ、おッ！食らえッ！膣奥でガチガチになったちんぽ、食らえッ！」

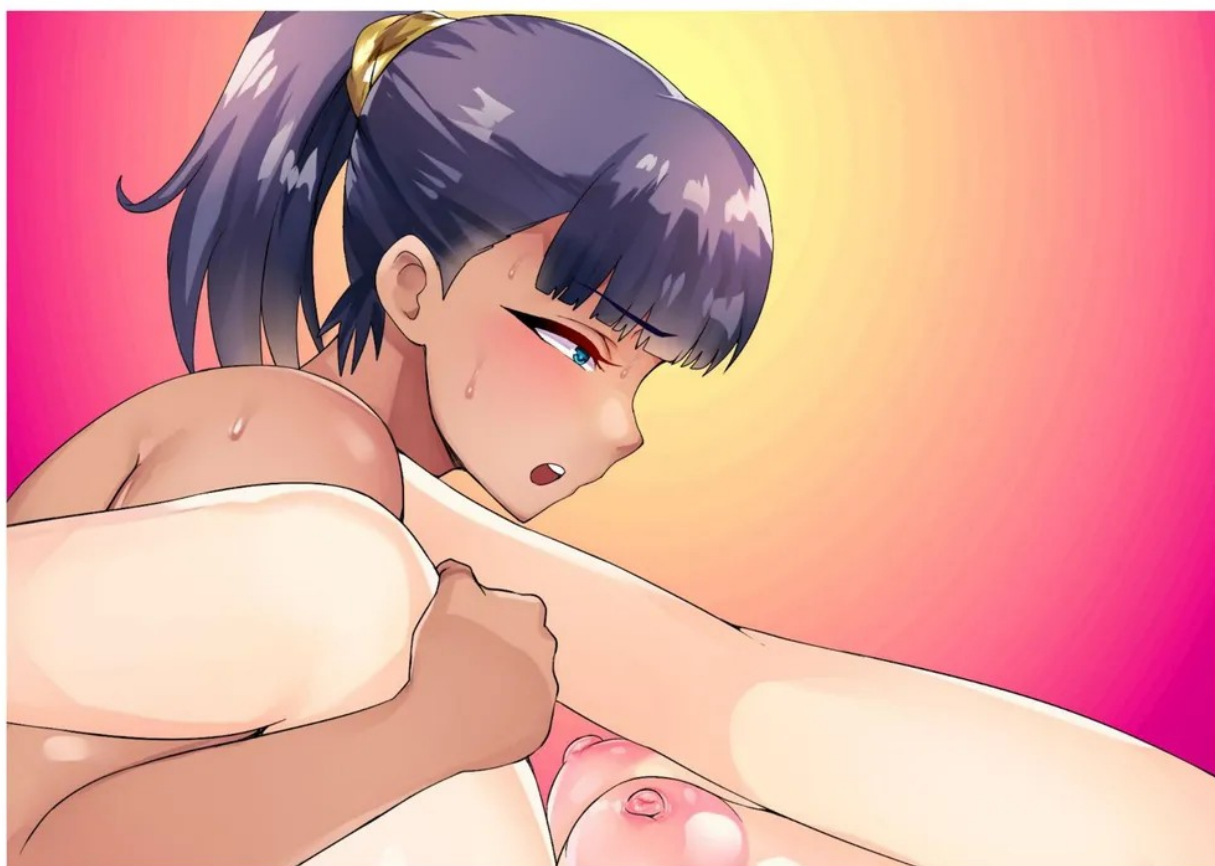
「おひいい...ッ！美保ちゃんしゅごいい...ッ！ママおかしくなるう...ッ！みんな見てるのにい...ッ！カメラの前でアへ顔晒しちゃうう...ッ！あへッ、あへええ...ッ！」

「ほらッ！皆さんに負けて教えてあげなよ！娘ちんぽに負けたって！おまんこされてメス堕ちしちゃったってさあ！おッ、おおッ！」

「んおお～ッ！負けッ！私の負けええッ！皆さんッ、私、麻美はあ...ッ！娘のちんぽでイカされるのが好きなあ...ッ、淫乱女ですうッ！んおおッ、おほおッ！」

「あはは！情けなあい！でもちゃんと言えたからッ、もっとハメてあげるッ！んおッ、おお～ッ！」

「おほおッ、ほおお～んッ！！イクッ、いっちゃうからああッ！ううッ、他の肉棒なんていない...ッ！ママには、美保ちゃんのちんぽだけえ...ッ！んほおおッ！」



「はあっ、はあッ！うう...ッ！」

「美保ってば、ママを抱えながらピストンできるなんてッ！んおおッ！底なしの体力になったのね...ッ！ママ嬉しいわッ！」

「はぁッ、はぁぁッ！これぐらい当然よッ！...それよりママッ、さっきからずっと甘イキしてるでしょッ！おまんこきゅうきゅう締めつけてきちゃってさぁ！んおッ！」

「んおッ、おほおッ！あら、バレちゃってたぁ～？うふふ、だって美保ちゃんのちんぽ、気持ちいいんだものおッ！」

「ううッ！だからってッ！遠慮なしに体重かけないでよッ！まったくッ！ふんッ、ううッ！」

「だってえ...っ！美保のちんぽっ！ママの1番奥をッ、ガンガン突いてきててえ！」

「はぁッ、はぁッ！そんなに気持ちいいならッ！もっと突いてあげるわよッ！ほらッ！んッ、んおおッ！」

「お"おッ？！う"ううッ！うぐうッ！」

「こうなったらッ！徹底的にッ、ハメ倒してあげるッ！んぐッ、んおおッ！覚悟してなさいッ！おおッ！」

「お"おッ！んお"ッ！言うじゃないのおッ！どれだけ気持ちよくさせてくれるのかッ、楽しみねえッ！んおおッ！」

「ふうッ、ふうう～ッ！ママッ、ちょっとナカ締めすぎッ！んぐううッ、ふうッ、はぁッ！食らえッ、食らええッ！」



「んお"おおおッ?!お"ッ、あへえ...ッ、んへええ...ッ!」

「んお"ッ?!お"ぼおおおッ!!ママッ、またイッちゃってるのッ?!んぐッ、うぐうッ!」

「あへ...えッ!んお"お...ッんッ!」

「そんなに締められたらあ...ッ、イくうッ!アタシもイっちゃうううッ!んほおおッ!」

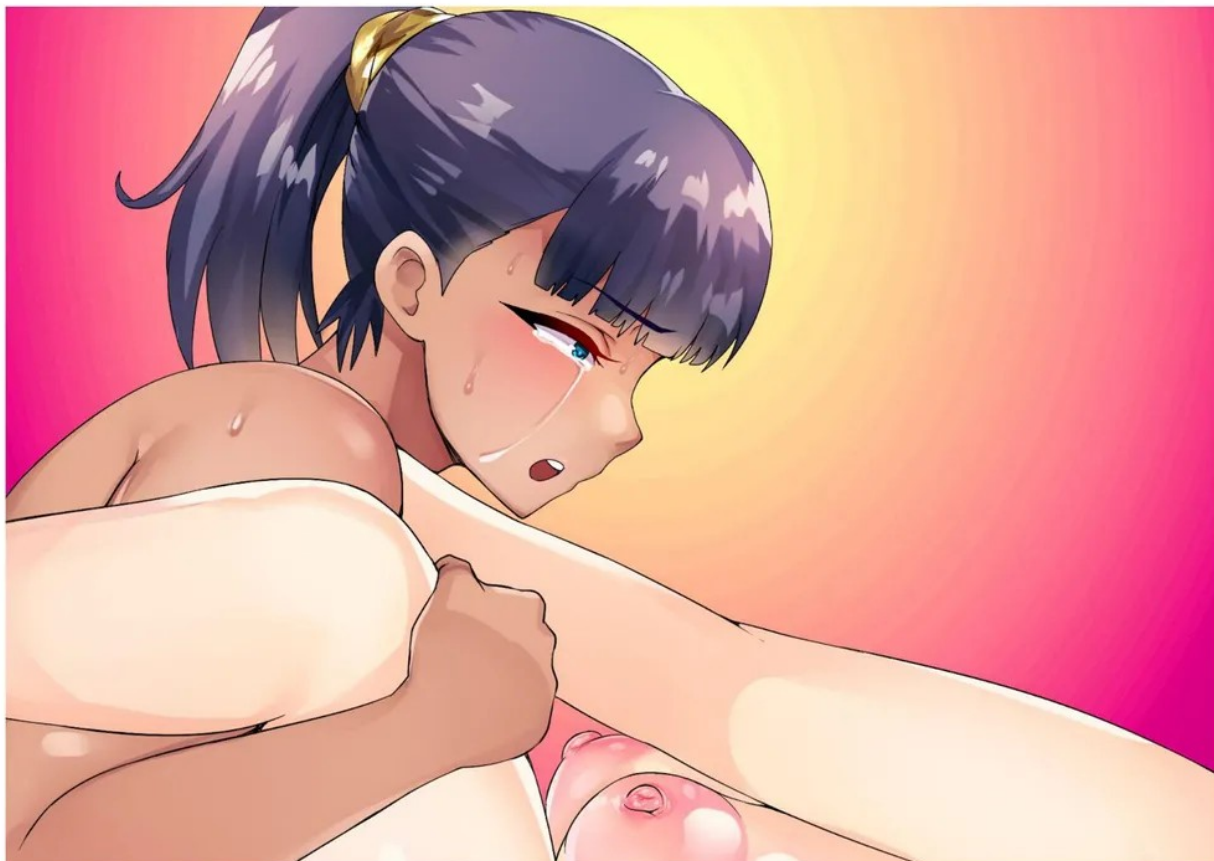
「うぐうッ!あへ...ッ、んひいいい...ッ!」

「お"おッ、お"ぼおおッ?!うぐうッ、出てる...ッ、ママのナカにっぱい出てるううう...ッ!」

「おッ、ぼおおッ?!うぶうう...ッ!」

「おッ、お"おおッ！んお"ッ！」

「も、もう精液入らない"よおお...ッ！う"ううッ、んぽおおッ！」



「んお"ッ、んぎいいッ！！んひッ、ひいいんッ！」

「う"ぶうう...ッ！」

「んお"おおッ！はあッ、はあッ！」

「あひッ、うひいい...ッ！んお"おッ！」

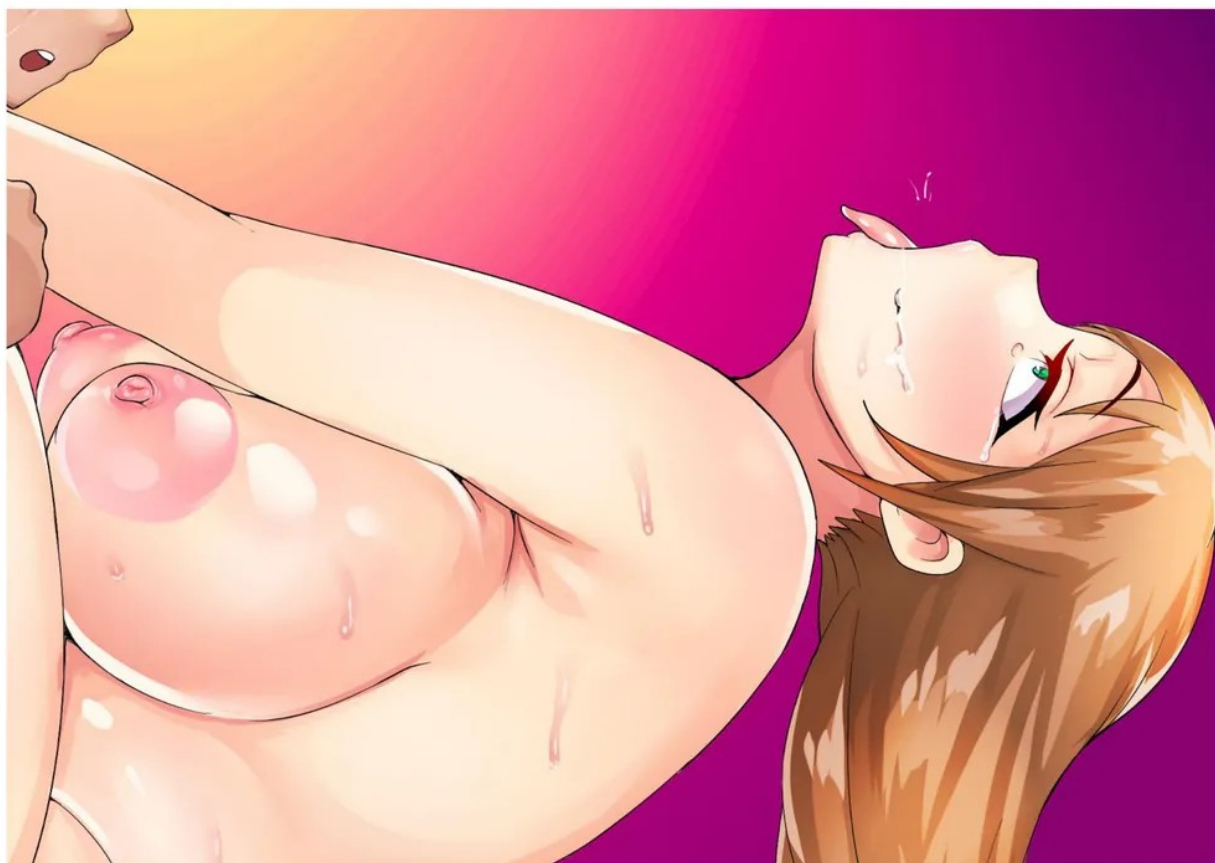
「気持ちよすぎて...ッ、わけわがなんないよお"...ッ！！う"ううッ！」

「あ...っ、あああ...っ！はひい...っ！」

「も、もうだめ...ッ！腕が...ッ、痺れてぎだあ...ッ！うう...ッ、でもお...ッ、腰の動き...ッ、止めらんないよお"...ッ！」

「ああ...っ、あひいい...ッ！んおおッ！」

「んぐッ？！んほおッ、お"おお～ッ！！またイってる...ッ、イってるよお
お...ッ！」



「あひ...ッ、あひいいん...ッ！」

「んおお...ッ！おほ...おんッ！」

「も、もうだめ...っ。う"うう...ッ！」

「ナカはずっと収縮しっぱなしだし、声も枯れてきてるしさあ...ッ。マ
マ、もうイキ狂って、おかしくなってるんじゃない...ッ？」

「あ...、あひ...ッ！美保だって...ッ！ママのナカから...、溢れるぐらいに
...ッ！中出ししてるじゃないのお...ッ！」

「だって、ママのナカッ！肉厚で締めつけがすごいんだもんッ！そりゃこれぐらい...、出るわよお...ッ！」

「でも、もうムリい...っ。締めつけるための気力もない...っ、みたい...っ」



「ううう...ッ、はあッ、はああッ！」

「あ、あひいい...ッ！」

「ふうッ、ふうう〜ッ！も、もう出ない...」

「お...ッ、おほお...っ！」

「はあっ、はあ...ッ！さすがにヘトヘトお...っ！」

「はあん...っ、はひい...ッ！ママもお...、もう、立てない...わ...っ」

「はあッ、はあ〜ッ！ママもアタシもッ、もう何回イったかわからないね...ッ！」

「ホントね...。おまんこは痺れてるし、ちんぽも空っぽだし...。もうクタクタよ...っ」

「はあッ、今日の配信は終わり...かな...？はあッ、もう動けないし...っ」

「...はあッ、ま、待って。このまま終わったら私が搾られたままじゃない。そんなの...、許さないっ」

「ちょっとママ？」

「はあい、みなさあん！何か次のプレイの提案はないかしら？私が美保ちゃんをイかせるためにい、良さそうなものを募集するわ♪」

「アタシはもう疲れたんだって！部活帰りだし...っ、もう限界だよお...ッ」

「いっぱいコメント来てるわよお〜、なにになに？『ガニ股フェラ』？いいわね、やってやろうじゃないの」

「ちょっとママ！なんでそんなにやる気になってるのよお...ッ」

「ほら、美保ちゃん。さっさと立ってちんぽこっちに寄越しなさい。うふふ、搾り取ってあげる」

「負けず嫌いなママはこうなったら聞かないんだった...。ううう、もうムリだよお...っ」



「はあっ、はあ...ッ！ママ...、フェラはいいけどお...ッ、お手柔らかにしてよね...ッ。...んッ、んほおおおッ？！！」

「んぶぶぶう～ッ！んちゆるるッ！んぼッ、んぼおッ！」

「んッ、ほおおお...ッ？！おっほおッ！」

「んちゆるるうッ！んぶっ、うぶううッ！」

「おお...ッ、おほおッ！...ママ、待ってッ、だめ...ッ、激しすぎるう...ッ！こんなのすぐイくからあ...ッ！」

「こんなのでへこたれないのッ！んぶッ、んぶうッ！こんなんじゃママの肉便器は務まらないわよ？んぶぶうッ！うぶうッ！」

「おっほおお～ッ！尿道に残ったザーメン、全部吸われてく...ッ！おほおおッ！たまんないッ、これたまんないよおおお...ッ！おほおおんッ！」

「皆さんもお、私のガニ股とフェラ顔見て、シコシコしてくださいねえ～？私の動きに合わせてえ…。いきますよお～？んぶッ、んぶぶッ！んぶッ！んぶぶう～ッ！」

「んほおッ、おほッ、ほおッ！ママもちんぽガッチガチだし…。おほおおッ！んほッ、ああんッ！」

「はああん…ッ！美保のちんぽ、最高に美味しいわあ…ッ！雌特有の卑猥なフェロモン臭と…、尿道に残った精液の生臭い香り…。両方が混ざったエグい臭いが鼻を抜けてく…。最高よお…っ」

「おほおッ！ちんぽの臭い嗅ぎながら勃起してるなんて、ホンット変態ッ！おほおおッ！そんなにちん嗅ぎ好きなのおッ？おほおおッ！」

「好きッ、ちんぽ嗅ぐの好きい…ッ！すんすんッ！すう～ッ、はああ～ッん！」

「くうう、鼻息が…ッ！おおッ！ママッ、もっと奥で啜えてえッ！ううッ、んおおッ！」



「んぶッ、んぶぶぶう～ッ！？うぶッ、うぶうう～ッ！」

「激し...ッ！うううッ！んおおッ、おほおおッ！もしかして、ママッ！食道まで咥えてる...ッ？！んおおッ！」

「うぶぶうッ、うぶッ！んぶッ、んぶッ、んぶぶッ！」

「んおおッ！アタシのちんぽ、大きいから苦しいでしょ？あははっ！でもお、ママのちんぽ、更に勃起しちゃってるよ？」

「んぶッ、んぶぶうッ！！」

「フェラでイキそうになってるなんて、ホント変態！んぐッ、そんなにイイならッ、もっと奥まで咥えてみてよッ！」

「うぶッ、うぶぶぶぶぶううう～ッ！？！」

「苦しい？気持ちいい？ママの大好きなちんぽ。口いっぱい咥えられて嬉しい？」

「んちゆるるるう～ッ、んぶッ、んぶううッ！」

「んおおッ！さっきまでママのナカにいたちんぽだよお。綺麗に掃除するんだよ」

「は、はひい...ッ！んぶッ、うぶぶッ！」



「んおおッ、おほおおッ！ママッ、上手くなってないッ？！んおおッ、おほおおッ！」

「うぶぶぶッ、ちゅッ、ちゅるるる〜ッ！れろれろれろおおッ！」

「だめッ、舌が裏筋舐めまわしてるうう...ッ！速すぎッ、舌の動きやばいい...ッ！！」

「れろれろお〜ッ！んちゅうう〜ッ！うぶぶぶッ！んあああんッ！」

「おらッ、雌豚ッ！みんなにイラマ見られてえ、感じちゃってるのかなあ？脚はどんどん開いてきてるしッ！本気汁も垂れ流しじゃん！」

「んぶぶッ、うぶぶう〜ッ！」

「喉の奥突く度、ビクビクさせちゃってさあ！食らえッ！ガチガチちんぼのピストン食らえッ！んおおッ、おおッ！」



「んんんぶうううう～ッ?!」

「んおおおッ?! おおッ、おほおッ! ...ママってば1人でイっちゃった
のお～?!」

「んんんッ、んぐううッ、んぢゅううッ!」

「く、唾えながら喘ぐなあ...ッ! うぐぐッ、アタシもイキそうになるうう
...ッ! おおおッ?!」

「んんんッ、んぶう～ッ!!」

「出るッ、出る出るうッ! ママの口に出しちゃうッ! 濃厚ザーメン射精く
るううう～ッ!! んおおッ、おほおおおッ!」

「ぢゅるるるるるる～ッ！んぢゅッ、んぶぶぶッ、れろれろお～ッ！！」

「もっと奥まで咥えてえッ！んおおッ、出すからッ！喉に貼り付く濃厚
ザーメンッ、ママの口に出すからあッ！！」



「んぎいいいいい～ッ！！んおおッ、おッほおおお～ッ！！」

「んぐッ、んぶぶぶぶぶうう～ッ！？！」

「んぎッ、んぎいいいッ！まだ出るッ、出るからああ～ッ！！んおおッ、
おおッ！」

「うぶぶぶうう～ッ、んんんんッ！！」

「んおおッ、おお...ッ！！」

「ぢゅるるるうんッ！ぢゅるるう～ッ！！」

「うぐうッ！奥のザーメンも吸い出されて...ッ？！んぽおおッ！ぎ、ぎもちよすぎるうう～...ッ！」

「だひてえ(出してえ)！ふひはへへッ(ぶちまけてえッ)！んちゆるるるるんッ！」

「んぎいいいいッ！しゅごいいッ！全部出るッ、搾られるううッ！んぽおッ、おッ、ぽおおんッ！」

「れろれろおッ、んちゅッ、ちゆるるるんッ！」

「んおおおお～ッ！はあッ、はあッ！も、もう出ない...ッ、出ないい...っ」



「ごく、ごく♪ぢゅぽんッ！...ぷはあ～！臭くって...、濃厚で...ッ！
はああ～っん！最高～♪」

「おッ、おお...ッ！はあッ、はあッ、はあ...ッ！」

「ゲホッゲホッ！...ッはああ～っん！美保ちゃん、乱暴すぎよお...♪」

「乱暴にされて興奮してたくせに」

「うふふ。だって美保ちゃんのちんぽがあんまりにも美味しかったからあ～♪」

「...アタシも、ちょっとムズムズしてきちゃったかも...」

「あらあら。それじゃあ、2人で同時セックスしちゃう？」



「こ、これでいいんだっけ...？」

「久しぶりにやるわねえ、これ♪んんッ、これでお互いのおまんこにちんぽを入れてえ...ッ！んおおッ？！」

「んおおッ？！こ、これすごい...ッ！」

「おまんこと、ちんぽ♪両方気持ちよくなれるものねえ...ッ！頭おかしくなるぐらいにッ、気持ちよくなれるんだからあッ！」

「そうだ、みんなちゃんと見えてるかなあ～ッ？これ、アタシのちんぽがママのおまんこにい...」

「私のちんぽがあ、美保のおまんこに入ってるのよお～♪」

「それでえ、全身をグラインドさせればあ...ッ！...んひいいッ！！んおおッ！」

「んぎぎッ？！ぎ、ぎもちよしゅぎるううう～ッ？！」

「んぎいいッ！全部が気持ちよくて...ッ、もうどこが気持ちいいのか...ッ、わかんないいいッ！これッ、おかしくなるッ！おかしくなるからああ～ッ！！」



「お"ほッ、ほおおんッ！ひぐううんッ！」

「んお"おッ！これしゅごしゅぎるうう...ッ！！んおお...ッ！お"おッ！」

「これホント、すごい...ッ！こんなの...ッ、終盤にするもんじゃないわよおお...ッ！！」

「こんなの、すぐバテちゃうう...ッ！んぐううッ、はあッ、はあッ！」

「ちょっと腰、動かすだけで...ッ！イきそうなぐらい...気持ちいいよお"お...っ」

「ふんッ、ふんッ！腰振りダンスッ、食らえッ！食らええッ！んひいいい...ッ！」

「お"ぼおおおお～ッ？！」

「んお"おッ！ママってば身体跳ねすぎッ！んぐううッ？！」

「く、くる...ッ！きちゃうう...ッ！だめッ、もう動かしちゃダメえ...ッ！きちゃうう...ッ！」

「んお"おッ？！ママのナカツ、すごく震えてきてるよおッ？！んぐうッ、イクのおッ？！いいわよッ、イケえッ！ママ、イツちゃえ！」



「んぼおおおおお～ッ！！！」

「んおおッ！ママってば、噴乳までしちゃってるじゃん！おっぱいなんて触ってないのにい！感じすぎちゃったかなあ？」

「おぼおッ、うぼッ、んおおおんッ！」

「動物みたいにアンアン喘いじゃってさあ！身体もビクンビクンさせちゃって！これ完ッ全なメスイキだし！」

「くうッ！美保ちゃんだけ余裕ぶってええ...ッ！許さないんだからあ...ッ！ふんッ、ふんッ！おおッ！」

「んおおおおッ？！イ、イキながらピストンしてるのおッ？！なんて体力...ッ！んぐうッ、おほッ、ほおおッ！」

「ママだってッ！やるときは...ッ、やるんだからあ...ッ！！ふんッ！ふうんッ！ほらいけッ！いっちゃええッ！」

「んお"おッ、んほお"おおおお～ッ！？！」

「んおおッ！たっぷりざーめんきたあッ♪ナカにきてるッ！んおおッ、おほおッ！」

「んほおおおお～ッ！...はふう...ッ、はふうッ！」

「うふふ。これでおあいこね...っ！はあっ、はあっ！」



「はあッ、はあ...ッ！イカされちゃった...ッ？！」

「はあっ、ママを見くびらないで欲しいわねえ～。たしかに美保ちゃんも体力はつけたみたいだけどお」

「くう...ッ！」

「今までずうっと美保ちゃんのことリードしてたのは、誰だと思ってるのお～？ほらッ、食らいなさいッ！」

「んぐうッ！んおおッ、お"ッ！？や、やるわねえ...ッ？！」

「あら、美保ちゃんの弱いところなんて、ママは知り尽くしてるのよお♪」



「それならッ、まだまだやってやるからッ！...ママのおまんこに、アタシのちんぽ挿入！」

「...むぐうッ？！私だって、美保ちゃんのまんこに...ッ、ちんぽ入れちゃうんだからあ〜ッ！」

「アタシがスクワットしてあげるからッ！ママは、ちゃあんとまんこ締めてね？ふんッ、ふんッ！ふんッ！」

「うぶうッ、うぐうんッ！さっきまで息切らしてたクセにい〜ッ！」

「アタシだってッ、いつまでも子どもじゃないんだからッ！ふんッ！ふんッ！」

「くッ、くうッ！大人げないけどッ、私も本気ださなきゃいけないみたいねッ！んおおッ、おほおんッ！」

「んお"ッ！あへ...ッ、うへえッ！んおおッ！おほおおお～ッ！」

「美保はココが弱いものねえ～ッ♪ほらッ、おッ、おおッ、お"おッ！」

「う"ううう～ッ！あへえ...ッ、あへええ...ッ！！」

「それにい、内側から亀頭でコスられるのも好きよねえ～？昔から、ココを弄られるだけでイキそうになってたしい～ッ！」

「そ、そこはだめえッ...！！んお"おッ？！う"ぐうう...ッ！う"お"おおッ！」

「う"ぶううッ！美保ちゃんッ？！そんなに締めつけたら...ッ、んお"お"ッ？！」



「あへ...ッ、あへえええ...ッ！」

「おおッ、んほおおッ！...はあッ、はあッ！」

「んほッ、おほおおッ！」

「お"お...ッ！だらしのない声が聞こえてくるけどお...ッ、もしかして美保、アヘっちゃってるのかしらあ〜？」

「んへッ、あへええ...ッ！...そ、そんなことないからあ...ッ！」

「そうかしらあ〜？まあ、ママからは見えないけどお...、カメラからは見えてるはずだし、あとでアーカイブ確認すればいい話だけど♪」

「う"ぐうッ！...ママだってえ...ッ、この格好...ッ！んぐうッ、恥ずかしくないのおッ？！」

「...どうということよおッ？！」

「身体の上に乗られてえ...ッ、無様に潰されちゃってさあ〜ッ！娘にいいようにされてえ〜ッ！恥ずかしくないのかなあ〜って♪」

「はあ〜？これは、美保に上を譲ってあげただけで...ッ！」

「ええ〜？声がこもってて聞こえないなあ〜？」

「くうう〜ッ！見てなさいよおお...ッ！」



「お"ッ、お"おッ？！」

「ふんッ、ふんッ！こうなったら、私諸共イかせてあげるわよ！ん
おおッ、おおッ！」

「ちょっと、ママあッ？！いきなり激しすぎい"い...ッ！」

「美保が調子に乗るからじゃないッ！ふんッ、ふんッ！お"ッ！ママに逆
らったらどうなるかってこと、しっかり教えてあげないと...ッ！」

「んぎいいいい...ッ！お"ッ、おおッ、お"ぼおおッ！」

「腰を使って...ッ、んお"ッ！...一気にい...、ふんッ！！」

「お"ッ、お"おおおッ？！」

「ふんッ、ふんッ！ふんッ！」

「これッ、ヤバあ...ッ！んお"ッ！イクッ、イっちゃうよおおお...ッ！」

「ちょっとおッ？！美保ちゃんッ、いきなり締めないでえ...ッ？！んぎ
いいッ？！お"ッ、おおッ！私もイっちゃう...ッ、からあ...ッ！」



「お"ぼおおッ?!んぼおおおおお...ッ!!」

「んぶぶぶううッ?!う"ぐううう〜ッ!!」

「んお"お...ッ!お"ッ、お"ッ?!」

「んひいいいい〜ッ!?んぎいいッ!」

「ママってば...ッ、んお"ッ、締めすぎ...ッ!」

「しょうがない...ッ、じゃないのおッ!イってるんだからああ...ッ!んお"おッ!」

「そんなに...ッ、お"ッ、締められたらあ...ッ、また出るううッ!お"おッ、出る出るううッ!」

「うぶう"うッ?!もう入らない...ッ、わよおお...ッ!う"ぐう、ママも中出しで...ッ、イぐうッ!んお"ッ!お"ッ!」

「んぎい"ッ？！ママも...ッ、出しすぎだってばぁッ！んお"ッ、お"おッ！」

「美保こそおッ！お"ッ！締めすぎよお...ッ！ママのちんぽに...っ、まとわりついて...ッ、あひいいんッ！」



「あひい...ッ、あへ...ッ、あへええ...ッ！」

「はあッ、はああんッ！もうッ、これ以上はだめ...っ！」

「そうね...ッ、アタシも、限界よ...っ！はあっ、はああッ！」

「やっぱりこの体位は、最後にすべきじゃなかったわね...っ！はあっ、はあっ！」

「はあッ、はあッ！汗と汁で身体、ベッタベタになっちゃった...」

「私も...。それに、こんなはしたないこと...ッ、配信してただなんてえ...っ」

「はあッ、はあッ、はああッ！...アタシってば、もう、配信してたってこと...っ、すっかり忘れてたあ...っ」

「む、夢中になりすぎた...、わね...っ。はあっ、はあ...っ」

「う"うう...ッ！身体が...ッ、重い...ッ！...って、まだ出てるよおお...ッ！」

「んぼおお...ッ！中出しきてるううう...ッ！」

「あ"あ...ッ！」

「お"...っ、お"おお...ッ！！」



「あ...ッ、あへ...ッ」

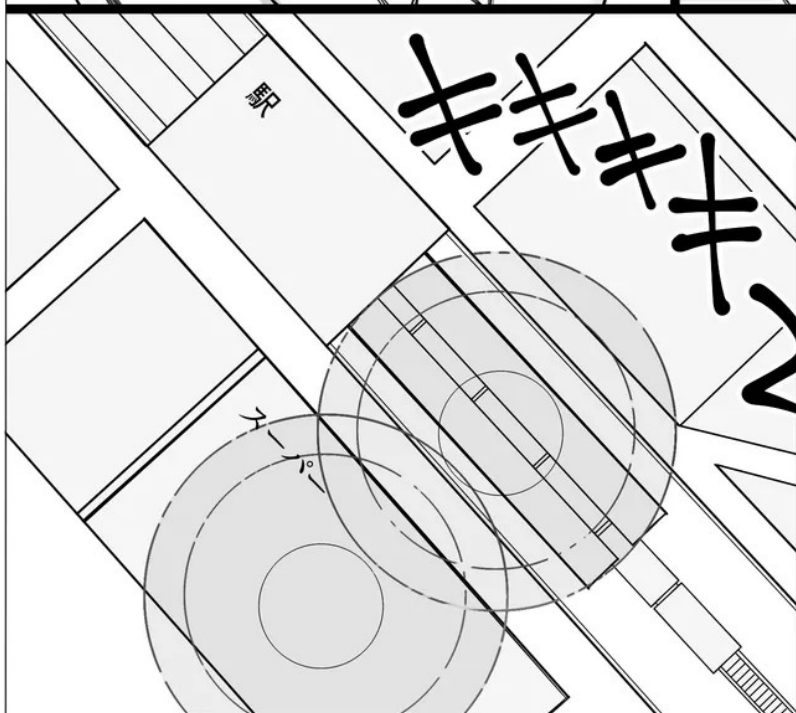
「ああ...ッ、あ...ッ。あへ...えッ」

「こ、これで...、今日の配信は...、おわりでえす...」

「みなさあん、ありがとう...ございましたあ...」

「また、あしたもお...」

「みてください...ねえ...♪」











かあぁ

ボツキしてたの
見られちゃったかも！

ヤバ！
しまった

キャー
スカートに
変なシミがあー！

じわっ

びく
びく

いっ
いっ
いっ

どろろ

だ

WC

こんなところでオナニーなんて
これじゃ変態だよお…

そお…

でも…

ハア

くちゅ

くちゅ

ハア

止められない…ツ♡

ハッ

ハッ















あーあー
みつともないおもらし♡

ほら、
ちやんとおトイレに
ぴゅっぴゅって♡

ダメですよ
ハミ出しちゃ





おちんちん
トロける♡♡
すぐ出ちやいそ♡

あゝ♡

おん♡

おん♡

ん♡

ギモヂイ♡

おん♡

おん♡

あゝ♡

抵抗できにやい♡♡
負けちゃう♡♡































































